

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

べとれへむの風

発行：べとれへむの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会
住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.net>



No.132

「夕桜(ゆうざくら)」新刊の紹介です 2025年9月

院長 青木 信彦



～延命治療は望みません、自宅での療養と看取りを望みます～という家族。

それでも入院治療を勧める病院の方針に納得がいかない老夫婦は、前代未聞の脱走計画を企てます。

こんな解説で始まるこの本をあっと

いう間に読み切ってしまいました。

自分の最後をどう締めくくるのか、たくさんの人生の最後をみてきたあおき個人の希望は「自宅での自然死です」。みなさんにも「自宅での自然死」をお勧めします。これで人生の軟着陸ができます。

医師に「老衰です」と言われたら ⇒老衰になるまで生きた!と自慢しましょう。家族も喜びます。

老い衰えること、つまり老衰になるまで生きたということなのです。

自分の持っている全てを使い尽した証（あかし）なのです。

「自宅での自然死」のためには、かなり前からの準備が必要となります。

幸い、急に雲隠れすることは少ないので、時間的には余裕はあります。

まず最初にすることは「家族会議（ACPといいます）」です。

ここで、～延命治療は望みません～ということをご本人と家族がはっきりと意思決定をしておくことです。

その時の心身の障害にあわせて、社会的なサポートを導

入しましょう。

担当のケアマネージャー（ケアマネ）さんにごんばってもらうことになります。

一方、現実を見渡すと様子は十分ちがっています。

医療の発展とともに「終わり」の選択肢が複雑となっているのです。

この本（夕桜）では、自分らしい生き方を最後まで貫くことはできるのか、本当に幸せな最期とは?を問い続けます。

5人の主人公たちが選んだ「旅立ち」のかたちを描いた作品です。

著者は岡田公男さんです。専門は理学療法士であおきの古い仲間です。

岡田さんからのメッセージをいただきました。

～多くの人に読んでもらいたいです。そして、少しでも生き方が変わり、幸せを感じられればと願っています～

「夕桜」 岡田公男・著 幻冬舎・出版



健康公開講座

「脂質異常症の食事と薬のお話」開催報告

薬剤師 平澤 佑実彦

ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、薬剤科と栄養科では年に一度、無料公開講座を開催しております。

私どもの講座の特徴は、何と言っても栄養科手作りの食事を、参加者の方々に味わっていただけることです(入院患者様と同じ病院食です！)。

これまでの講義ではビタミンシリーズを長く取り上げてきましたが、今年からは内容を一新し、病気ごとの「薬と栄養」のお話に取り組んでおります。

今年は脂質異常症をテーマにお話しました。来年は糖尿病や心不全など、食事に関係するテーマでの講

座を予定しております。

なお、食事の提供は年に一度ですが、他にも各担当者による講話は年4回、3か月に一度のペースで行っております。お時間のある方は、ぜひお気軽に足をお運びください。



永年勤続 表彰 受賞報告

社会福祉法人慈生会の永年勤続表彰が2025年6月27日に開催され、当院からは総勢11名が受賞の栄誉に与ることが出来ました。

受賞者は

●20年表彰

窪田由佳(看護部長)、
大和理恵(事務次長)、
河野妃登美(総務主任)

●10年表彰

下坂美幸(看護主任)、宮田あゆみ(リハビリ主任)、
玉城佐和子(医事リーダー)、市川タ子(看護師)、
織田順子(介護サブリーダー)、豊里孝子(介護福祉士)、
西ノ園容子(介護福祉士)、板場晃子(看護補助者)
と幅広い職位・職種の職員が表彰されました。



20年・
10年受賞者
代表より、
感想を頂きました。

●20年受賞者代表

窪田由佳<看護部長>

『永年勤続表彰感謝申し上げます。今年度はベトレヘムの園病院からの表彰者が11名と円陣が組めるほどで誇らしくもありました。シスター方の祈りとマリア様に守られ、これからも魅力的な療

養病院を目指しアタックNO.1で行くのです。

●10年受賞者代表

下坂美幸<看護主任>

育児と仕事を両立しながら、無事に勤続10年を迎えることができました。支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。表彰式では久しぶりに北村シスターにお会いし、懐かしく、温かい気持ちになりました。

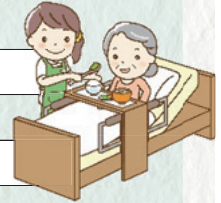
病棟の日常 ～ケアワーカー編～



ケアワーカーってどんなお仕事してるの？

患者さんの身体面(体調管理や治療)をサポートする看護師に対し、入院中の日常生活全般をチームでサポートするのがケアワーカー。

生活支援	食事、排泄、お風呂、身支度(洗面、爪の手入れ、髭剃りなど)
移動介助	車椅子やストレッチャーでの、安全かつスムーズな移動をサポート
環境整備	清潔で快適な生活空間を作り、感染予防や衛生管理にも配慮
安全・安楽ケア	転倒や転落を防ぎ、姿勢を整えて安楽に過ごせるようサポート
看護師のサポート	治療補助や器具の洗浄、コール対応など、医療行為以外で看護師をサポート



その他レクリエーションや委員会の仕事など、患者さんの生活をより豊かにする活動もしています。ケアワーカーは、患者さんと信頼関係を築き、毎日のケアを通じて生活の質を向上させることを目指しています。



ケアワーカーさんに聞いてみた

患者さんに言われて、忘れられない言葉は？

ケアに対し「上出来だ」。お世辞が好きじゃないストレートな方だったからこそ。

ケアで大事にしている思いは？

自分のことは自分でやりたいという当たり前の充足感を、どんな人も失いたくないという前提があって生きているという事。

患者さんの言動から、「人間って奥深いな」と感じたことは？

誰もプライドがある。辞めたくない本当があること。

この仕事を選んだきっかけって何だったんですか？

仲のよかった友達が介護の専門学校に行っていたから。

食事介助の時、患者さんの状態に合わせて工夫していることはありますか？

食べる姿勢、スピード、ご飯とおかずの配分

自分の声かけや対応で、患者さんの表情が変わった瞬間ってありますか？

あまり表情がない患者さんが冗談を言ったらクスッと笑った時。

この患者さんは何を求めているのか、と考えることはありますか？

話せない患者さんがほとんどなので、常に考えています。

「あの人と出会えてよかったな」どんなこと？

皆さん個性の塊であること。忘れたくても忘れられない出会いであること。お互いが過ごした日々が年齢や生まれ、違うこと尽くしの不思議さが存在していたこと。

「現場にいるからこそ…」世間に伝えたら？

人が人を支える大変さ、現実。それでも支えようとしてくれる人が存在するのは当たり前じゃないと感じさせられる。その人の個性を面白いと大変と、感じながら伴走してくれる他者がいてくれること。愛情のある人がいる。人を思う人のありがたさ。

チームで情報共有するとき、気を付けていることは？

その日いないメンバーに正しい情報が伝わるように。

患者さんの「尊厳」を守るって、どういうことだと思いますか？

その患者さんひとりひとりの気持ちを汲み取りそのひとらしくしてもらう。

療養型で働く中で、「介護って何だろう」と思う事がありますか？

寝たきりが多く刺激が少ない。その中で介護士として何が出来るか考えていますが、中々難しい…。



ひふの話

その
84

市川 雅子(皮膚科医師)

コチニールアレルギー

前回、ナッツアレルギーのお話をしましたが、もう一つ、意外と知られていないアレルギーのお話をしましょう。それはコチニールアレルギーです。コチニール色素(カルミン酸色素とも呼ばれます)とは、中南米のウチワサボテンにつく昆虫のエンジムシ(カイガラムシ)から採れる赤色の色素のことです。その歴史は古く、インカ帝国の時代にはすでに使われていて、その安定性や安全性が認められ、今も食品や化粧品、医薬品の着色、衣類などの染料として世界中で広く使われています。しかし近年、この色素による急性アレルギー反応の報告が相次いでいます。特に、コチニール色素を含んだ赤色の化粧品(口紅やアイシャドウ、チークなど)を繰り返し使うことで、経皮



感作がおこり、その化粧品を使うと赤く腫れる、じんましんがでるなどの皮膚症状が出たり、あるいは、コチニール色素を含んだ食品(有名なのは海外製の赤いマカロンですが、赤い色のお菓子、ハムやジャム、カンパリソーダのような赤い飲料など)を食べてアナフィラキシーショックを起こし救急搬送されるなどの報告があります。化粧品によって経皮感作が起こることが多く、それゆえ患者さんの多くは女性ですが、男性や子供の報告もあります。そして、このアレルギーを調べるには、血液検査ではなくプリックテストという皮膚テストをおこなうのですが、ショックを起こす危険もあり簡単には行えません(当院でも行っていません)。そうならないためにも、赤い色の化粧品を買う時にその成分表示をよく見ること、使っていて異常を感じたら使用を中止しましょう(これは化粧品全般にも言えることです)。また、赤色の飲食物を摂取して異常を感じたら、すぐに医療機関を受診して、その時に食べていたものや原材料名がわかるときにはお知らせ下さい。また、アトピー性皮膚炎がある方や顔や手などに湿疹が出やすい方は、皮膚の防御機能が弱くなっているの、使う化粧品や飲食物の内容に注意するようにしてください。普段から成分表示や原材料名を見るように習慣づけるとよいでしょう。

お知らせ

参加
無料

無料健康公開講座 健康長寿シリーズ⑦

ピラティスで「骨活」
人生100年時代を骨太で行こう !!

日時：令和7年12月4日(木) 14時～15時
会場：ベトレヘムの園病院 2F 会議室
講師：窪田看護部長・
当院メディカルピラティスインストラクター
予約：不要

軽い運動を行います。
動きやすい服装でお越しください。



ベトカフェ & ギャラリーマルゴ

日時：令和7年9月17日(水)
14時～16時

会場：ベトレヘムの園病院 2F 会議室

9月は、久しぶりのギャラリー開催☆
大小さまざまなパッチワーク作品を多数展示いたします。
お茶を飲みながら、穏やかに過ごしてみませんか。



編集後記

『ベトレヘムの風』に導かれ、風の本質に思いを馳せました。聖書の原語ヘブライ語で「風」は「ルーアハ」。これは「息」や「霊」という意味も持つ言葉です。聖書には約180か所に「風」が登場し、多くは神の臨在、裁きや試練、力の象徴として吹き、人はその現象に圧倒されます。唯一、心地よい風が吹く場面、それは聖書で最初に登場する風。神が園を歩まれるとき、涼しい風が吹きました。しかしそのとき人はすでに罪を犯し、神の顔を避けて隠れます。それ以来、風は「神のまなざし」を思い起こさせるものとして吹き、今も人に語りかけているように思えます。(※口語訳聖書を参照しました) (T・Y)

